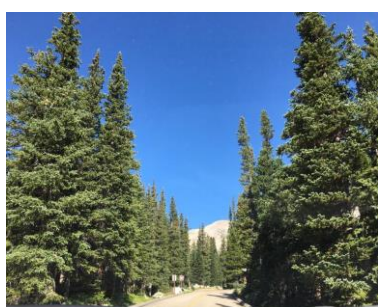




出羽庄内国際村

英語教育を学ぶコロラドスタディツアー2016

2016年7月30日～8月13日



目 次

子どもの英語教育を学ぶコロラドスタディツアー

■ ツアーの概要／ツアー期間／アメリカ・コロラド州について	2
■ スタディツアー 日程表	3
■ 参加者による報告	
鈴木 万緒さん	5
中島 那美子さん	37
■ ツアー参加者名簿・同行者より	56

子どもの英語教育を学ぶスタディツアー

● ツアーの概要

出羽庄内国際交流財団では、2007 年より山形県と姉妹県州となっているアメリカ合衆国コロラド州でのコロラドスタディツアーを実施してきました。中学・高校生の参加者を中心としてツアーを重ねてきましたが、英語を母語とする国での語学研修や、アメリカならではの先進的な英語教育に触れる機会が多く、日本での子どもに対する英語教育に活かせるものが多く得られるのではないかと、2014 年より本事業を開始しました。

今回のプログラムでは、全泊ホームステイをしながら、現地の小学校や高校を訪問したり、英語指導の専門家による実践的な英語の研修等を行いました。今回は違う地域の 2 つの小学校を訪問し、現場の教師との懇談の機会を設けました。英語を母語としない子どもに対する言語の指導方法や、教室運営について、また様々な文化や背景を持つ子どもたちをどのように学校がサポートしているかなどを教えていただきました。人種のサラダボールと言われるアメリカならではの、教育現場を見ることができました。

● ツアー期間

2016 年 7 月 30 日～8 月 13 日 15 日間

● アメリカ合衆国 コロラド州について

- ・面積 : 26 万 9618 km² (日本の 4 分の 3)
- ・人口 : 約 5,180,000 人
- ・州都 : デンバー市
- ・気候 : 山岳、高原、砂漠と様々な

地形があり、気候も複雑なものになっている。

- ・日本との関係 :

1886 年に松平忠厚が日本人として初めてコロラドの地を踏んで以来、日本人移民がデンバーにも入るようになり、炭鉱夫、鉄道工夫として出稼ぎにきた日本人がかなり居住していた。第二次世界大戦当時、西海岸に住む日系人 12 万人が内陸部に強制移住させられたが、当時のコロラド州知事ラルフ・カー氏は、迫害された日系人を温かく迎え入れた。現在山形県とコロラド州は姉妹県となっている。

コロラド州在住日系人 約 19,000 人

在留邦人 約 4,186 人 (2014 年 10 月)



● スタディツアー 日程表

・期間 2016 年 8 月 30 日（土）～8 月 13 日（土） 15 日間

・日程

月 日	時 間	訪問先など	内 容 など
7/30	17:00	成田空港→ コロラド・デンバー	日本から直行便で移動
7/31	終日	ホストファミリーデー	
8/1	午前	レイクイザベルへハイキング	
	午後	ボルダー市内見学	
8/2	午前	英語授業	中高生ツアーと合同
	午後	デンバー市内見学	ダウンタウンの書店訪問
8/3	午前	ボルダー市内小学校訪問	Lisa Troxel 先生による授業紹介
	午後	ソーイング・サマーキャンプを 見学	JoAnne 先生のキャンプに参加 書道、紙芝居などを披露
8/4	午前	アラバダ地区 プレスクール訪問	折り紙、紙芝居などを披露
	午後	英語授業	中高生ツアーと合同
8/5	午前	デンバー子ども博物館視察	博物館スタッフ、メラニー氏による、 子ども博物館案内
	午後	デンバー市内小学校訪問 教材販売店訪問	Linda 氏による授業紹介
8/6	終日	ホストファミリーデー	
8/7	午前	日系人会主催 ピクニック参 加	200 人分の芋煮を作りふるまう。 花笠踊りを披露
	午後	ホストファミリーと過ごす	
8/8	午前	English Class	英語授業

8/8	11:30～	姉妹県州 30 周年記念 昼食会 参加	
	午後	デンバー植物園見学	
8/9	午前	英語授業	
	午後	デンバー市内見学	
8/10	午前	DCIS デンバーインターナシ ョナルスクール 訪問	在学生による、校内ツアー
	午後	デンバー歴史博物館 見学	
8/11	午前	モンテッソーリの指導法につ いて学ぶ	
	午後	デンバー郊外見学	
8/12	20:15	デンバー→成田	最終便で鶴岡着
13	20:15	羽田→庄内	

Colorado Study Tour 2016 活動報告書



Sat, July 30th, 2016 ~ Sat, Aug 13th, 2016

Mao Suzuki 鈴木 万緒

はじめに

今回、出羽庄内国際村主催の Colorado スタディツアーに参加する機会を頂き、実際に参加してみて、改めてこの貴重なツアーに参加できたことを嬉しく思っております。初めてのアメリカ中西部への訪問の中でコロラドの文化や自然、そして子どもの教育に携わる人々との交流を通じて、英語教育に限らず国際社会全体に対する新たな視野をまたひとつ獲得できたように感じているところです。

今回、英語教育スタディツアーに参加するにあたり、実際に自分の目で見て耳で聞いて実際に現地の人々と交流して、学びを深めたいという事象がいくつかありました。そのひとつはもちろん今回の英語教育スタディツアーの醍醐味である「アメリカの第二母国語としての英語教育の現場の様子や手立ての方法」であります。また、「多文化社会であるアメリカ社会」についてもこの機会に知見を深めたいと考えておりました。というのも、学生時代の一研究対象がアメリカの多文化社会だったということもあり、以前からアメリカの教育のみならずアメリカ社会のしくみについてとても関心をもっていました。また、以前アメリカ東部で実際に様々なバックグラウンドをもった人たちとともに暮らし、多文化社会アメリカ社会を実際に見る機会があり、多文化社会がどのように成り立っているのかということについて様々な地域の様子を見ながら理解を深めたいとも考えておりました。そのような思いもあり、今回は、コロラド州デンバーでアメリカの学校現場を訪問し教育について学ぶことによって、新たな視点で多文化社会アメリカを理解していくことができるのではないかと考え、参加させていただきました。ますます日本社会も国際化の流れの中で大きな転換期に突入している中で、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が暮らすアメリカという社会を知ること、今後の日本社会を考える上でのひとつの貴重な機会になるのではないかと。そんなことも考えながら今回のツアーが始まりました。今回は、アメリカにおける教育とアメリカ社会のあれこれについて、現地の人々から教えていただいたことやそれについての所感などを中心にまとめていきました。

以上のようにざっくりとはありますが、個人的なツアーの目標を掲げて臨んだコロラドスタディツアー、実際現地に行くと12日間あっという間に過ぎていきました。長いようで短かった今回のツアーの中で、まだまだ吸収したいことはたくさんあ

りましたが、今回のツアーがまた新たな学びを深めるひとつのきっかけとなったように思います。

目次

・アメリカの教育制度について

①アメリカの第二母国語としての英語教育の様子や方法

1. アメリカの義務教育制度
2. コロラド州の義務教育制度
3. 各学校の概要と英語教育について
 - (1)Lisa のクラス
 - (2)Linda のクラス
 - (3)DCIS



・コロラドスタディツアーを通して

- ①多文化社会アメリカ
- ②コロラドスタディツアーのようす

・最後に



アメリカの教育制度について

①アメリカの第二母国語としての英語教育の様子や方法

1. アメリカの義務教育制度

アメリカの義務教育制度

アメリカ合衆国における教育制度は、日本のものと似ているようで似ていない。義務教育に関して言うと、アメリカ合衆国50州がそれぞれ義務教育規定を持っており、大半の州では家庭・私立学校・国公立学校いずれにおいても義務教育を受けることを認めている国々のひとつであるとされている。

参考資料

2. アメリカ50州原稿義務教育制度の法規定分析／佐々木司（2003）山口大学

日本外務省 諸外国・地域の学校情報

http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/03n_america/info30131.html（最終閲覧：2016年9月29日）

そのなかでも今回はこのツアーで訪問した学校のあるコロラド州における教育現場の様子や手立ての方法を中心にまとめていきたい。

2. コロラド州の義務教育制度

コロラド州の教育制度

コロラド州の教育制度はコロラド州教育省の教育法に基づき、各学区の教育委員会によって決められている。外務省コロラド州メトロポリタン地区の学校情報によると、同地区はElementary education 5年、Secondary education 3年、Uppersecondary Education 4年 (Postsecondary Education 4年)

の学校制度を敷いており、義務教育期間は6歳～17歳以下までの期間で、学年でいうと1～12年生、高校三年生までということになる州の中でも学区によって異なる。

参考資料

デンバー日本語補習学校

<http://www.jsdenver.org/cms/modules/tinyd2/index.php?id=8> (最終閲覧: 2016年9月29日)

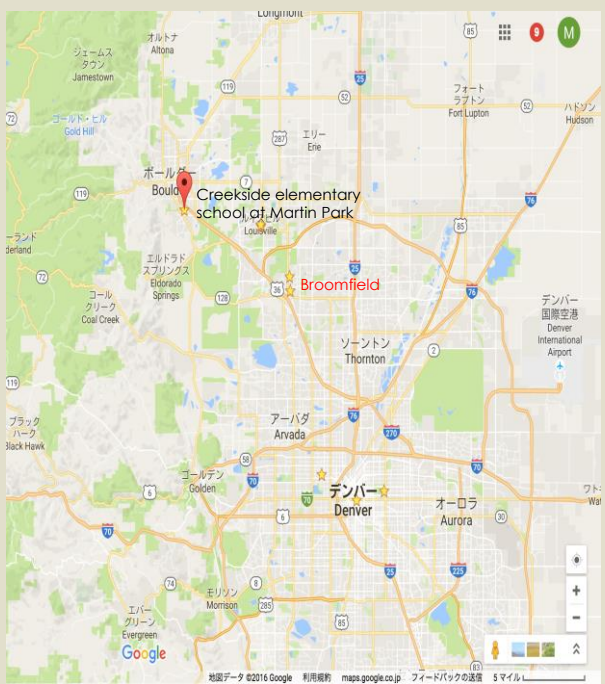
在デンバー日本国総領事館 <http://www.denver.us.emb-japan.go.jp/jp/bilateral/co.html#4> (最終閲覧: 2016年9月29日)

3. 各学校の概要と英語教育について

(1) Lisa のクラス

LISA'S CLASS

学年 First grade
生徒数 19人
(当時は夏休み真っ最中)
7月に前年度がおわり、新年度の準備中



Lisa の学校 Creekside elementary school at Martin Park はデンバー近郊のボールドーにあり、Boulder Valley School District という学区に位置する公立学校である。夏休み真っ最中ということで子どもたちに会うことはできなかったが、校長先生の案内のもと、日本の小学1年生にあたる First Grade の担任の Lisa 先生のクラスを見学させていただくことができた。

□教室の様子



校長先生から案内してもらい Lisa の教室へ。教室を見学また、Lisa 先生からは英語学習の教材や自身の教育の工夫などについて実物を見せてもらいながら教えていただくことができた。Lisa の教室は全体的にカラフルな色使いがされており、特に黒板付近の掲示や教室装飾が印象的だった。黒板付近の掲示には、世界各国の「こんにちは」と国旗が貼られている。これには、子どもたちが様々な言語に親しむことのできる機会を作るという意図とともに Lisa のクラスに通う子どもたちのバックグラウンドの多様性も併せて表しているということだった。

□英語学習

(1)活動ポケット

Lisa のクラスでは、英語の授業は子どもそれぞれが Writing や Reading などのブースへ行き、一人一人のペースでそれらの学習が行なわれている。例えば、活動ポケットには5つの活動カードが入っており、児童がその日の決められた学習を終えるとカードを裏返すので児童も教師もどのくらい学習したかを一目で判断できるようになっていた。

HOW THEY STUDY ENGLISH

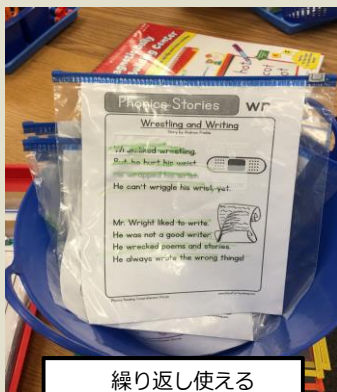


どれだけ勉強進んだか一目でわかる活動ポケット

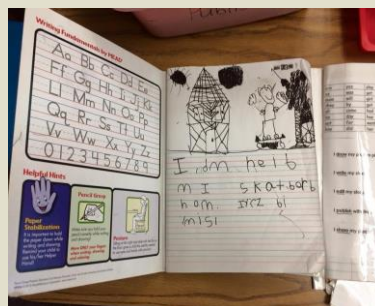
(2)Writing

まず私たちに見せてくれたお手製教材は様々な素材で作った Writing 練習キットだった。例えば、砂やシェービングクリームを使ったキットはそれらの上に文字を書いてもまた平らにして何度も練習ができるというメリットがある。また、同様にジッパー付きのファイルに紙を入れて模写をすることのできるキットは、繰り返し練習できるということに加え、真似して書くことができるというメリットがあるという。

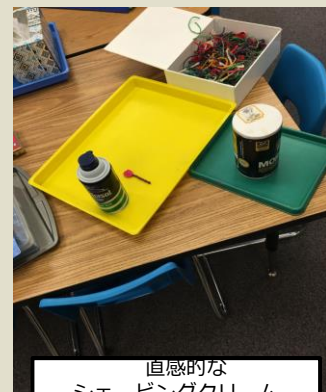
WRITING SKILL TRAINING



繰り返し使える
Writingキット



物語創作Notebook

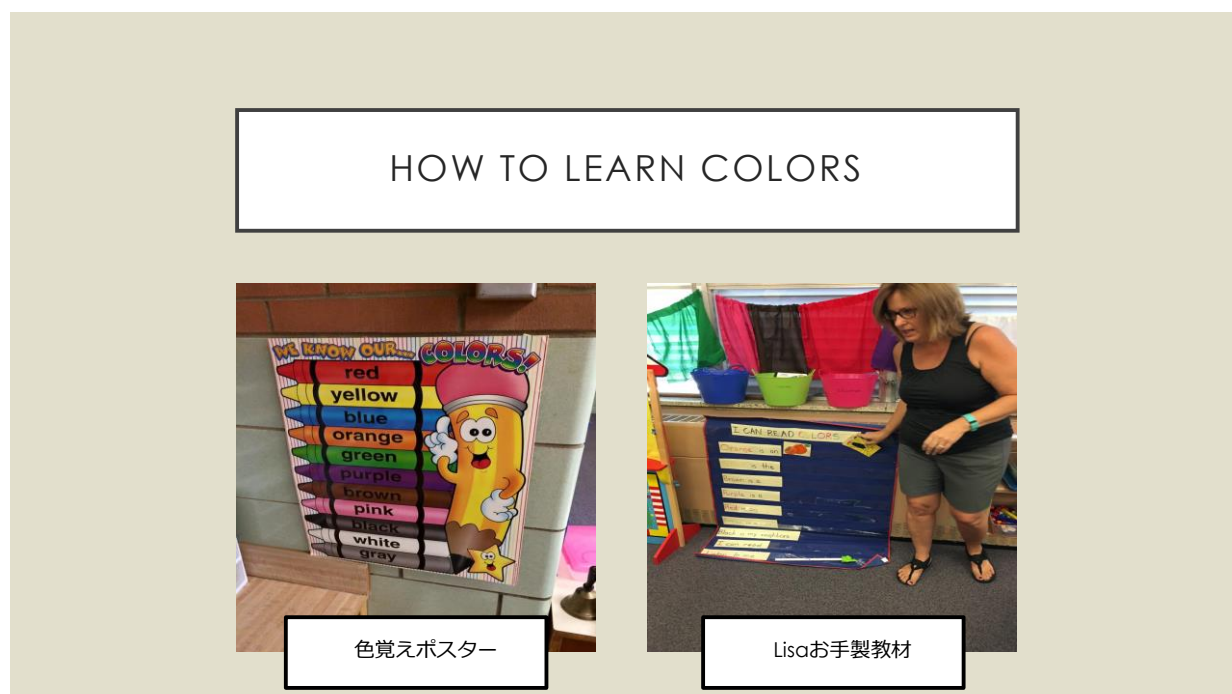


直感的な
シェービングクリーム
Writingキット

(3)色

Lisa は学習のモットーとして、子どもたちの「自主性」、そして「直感的・視覚的な学習」を掲げていた。Writing アクティビティをはじめとし、様々な学習場面で、知識だけでなく子どもたちの直感的で Artistic な才能を引き出すことにも重点を置いているということを教えてくれた。

例えば、色の学習をする際は **Orange** のように、色と文字そして絵をみてそれらを同時に認識できるような工夫をしている。色について学ぶ教材は、教室にいくつかあり、それらの教材を使って子どもたちは、オレンジはどのような色なのか、水色はどのような色なのかを認識していく。一見、色の学習は初歩的な学習のようにも見える。しかし、Lisa 曰く、両親が英語を話せない子どもも多く通っているため、色の概念と英語が結びついていない子どもが多いという現状に合わせて、そのような教材を用意しているということだった。入学してくる子ども達がどのようなバックグラウンドを持ち、どのくらい物事を理解できているのかわからない。子ども達の現状を理解し、どこまでさかのぼって学習を設定するかを調整しながら、子ども達の英語の上達のための授業を作ることが求められているようだった。



(4)教材

Lisa のクラスには、Lisa お手製の教材がたくさんあった。

LISAの教材たち



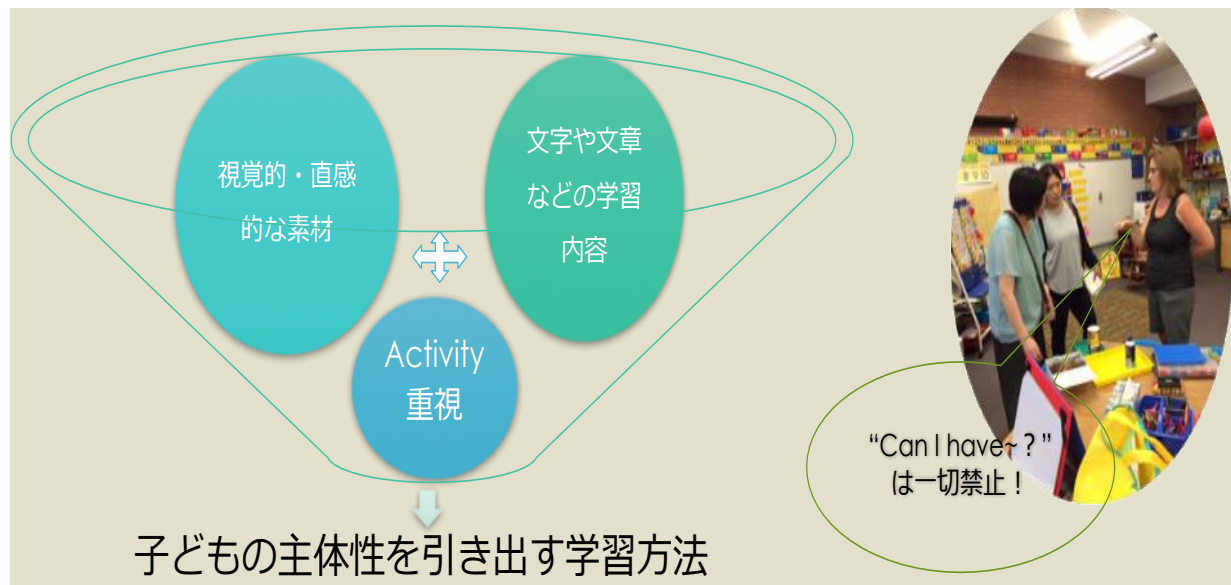
□ Lisa のクラスを見学して

「1年生は座らせておくことや、ワーク学習をすることは難しいから」ということで英語学習では、1年生であってもそれぞれがやるべきことを判断して学習する方式をとっていることには驚いた。落ち着いて学習ができなければ子どもの動きが一定して活発になるように Activity 重視の活動を設定するという逆の発想が新しく、そのようにするためには教材をよりおもしろく、子ども達が積極的に学習できるような工夫を日々取り入れている姿をみて、子ども達の現状に合わせた教材の大切さを再認識することができた。

そんな工夫をたくさん持っている Lisa がどのように教材を生み出しているのか聞いてみると、SNS でアイディアを集めているという。Pinterest という SNS には教材の



ヒントがたくさん共有されているそうで、「私が使っているものはなにも私が発明したものではない」とおっしゃっていたが、そこから実際に自分のクラスに合わせて教材化するというように SNS がアメリカの教育現場で役立っているという新たな発見ができた見学でもあった。



(2)Linda のクラス

LINDA'S CLASS

児童数 21人

たいいてい19～28人くらいの中で変動
そのほとんどの児童が英語を第二母国語として勉強している

Level 1 or 2
(当時は夏休み真っ最中)

こちらの学校も

7月に前年度がおわり、新年度の準備中

A Google Map of Denver, Colorado, with a red pin marking the location of Linda's school at 7125 Cherry Creek North Drive. The map shows surrounding areas like Broomfield, Thornton, and Aurora, as well as major highways and landmarks like Denver International Airport.

Linda の学校 Place Bridge Academy はデンバー市内にあり、こちらの学校も同様に国際色溢れる校風で知られている。学校に通う多くの子どもたちが英語を第二母国語としてるなど、移民や難民の子どもも多く通っている。

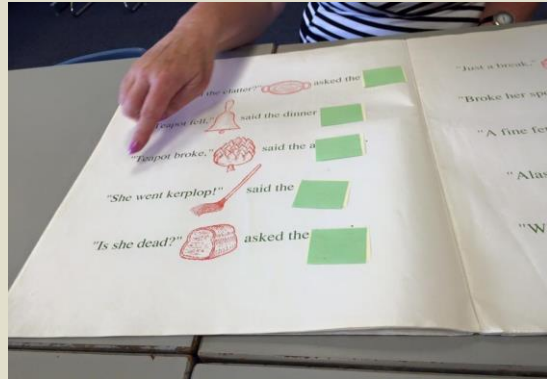
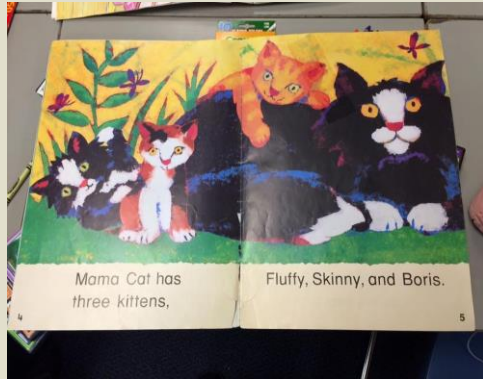
こちらの学校も夏休み真っ只中ということで子どもたちに会うことはできなかったが、英語レベルが初歩段階の Level 1、2 クラスを担当している Linda 先生からお話を伺うことができた。その際、英語レベルが初歩段階の子どもにどのように教えているかということを知ると同時に、そのような教育を提供するための学校の仕組みについても丁寧に教えてくださった。Linda の学校の特色を中心にまとめていきたい。

□英語教育

Linda の担当するクラスの児童は前述の英語が初歩的であるが、それは移民や難民の子どもに限った話ではないという。過去に担当したアメリカ人の女の子二人の両親はどちらもアメリカ生まれアメリカ育ちで英語を流暢に話すが、その女の子たちは小学校以前の生活の中で英語を上手く取得できなかったために Linda のクラスにやってきたという。英語ネイティブから移民、難民まで様々なバックグラウンドを持つ子どもたちにどのように英語を教えているのか。Linda はよく使っている教材として、絵本を例に説明してくれた。

下図の左の本は、写真のような猫の親子の紹介ページが何度も出てくる間に彼らの行動がどんどん変わっていくという内容になっており、Linda 曰く、本をどんどん読み進めるうちに子どもたちはお話のパターンを掴み、次に彼らがどんな動きをするのか自然と予測するようになっていくということだった。右の本も同じように、文章と絵から児童が何について言っているのかを推測しながら英語のリズムを習得出来るように Linda が答えとなる部分に付箋を貼り、子どもたちに読み聞かせているそうだ。また、これらの絵本ははじめから教材になることを想定して作られているようで、巻末には Vocabulary ページがあり、いつでも子どもたちが分からなかった単語が復習できるようになっていた。Linda 曰く、例えば猫の親子の絵本には、her や their などの代名詞や walk on や dig in などのイディオムがちりばめられており、子どもたちは自然と本の文章を覚えていくので、自ずとそれらの単語や言葉も習得していくことができるということで、子どもたちが視覚的、感覚的に英語を習得出来るような教材を使っている様子を見ることができた。

教材としての絵本



□Place Bridge Academy という学校

Place Bridge Academy を入ると、大きい世界地図が掲げてある。そこには数多くのピンが止めてある。これは、この学校に通う、または通っていた児童生徒の出身を表した世界地図で、アメリカ国内やアメリカへの移民が多いメキシコだけでなくアフリカ大陸や中央アフリカにも多くのピンがあった。また、ホームページ¹によると、60以上の違う言語、40以上の国々から児童生徒が集まる学校であり、彼らのバックグラウンドも様々である。この学校では、そのような児童生徒たちの特徴を生かし、子どもたちがお互いの多様性について学ぶ機会を学校生活の至る所に散りばめられている様子を伺うことができた。例えば、学校の仕組みの中では、制服には様々な種類があるなど宗教上の配慮がなされていたり、性的マイノリティへの配慮としてトイレは男子女子のほかに男女共用のものがあったりするなど、それが当たり前であるという前提で学校づくりがなされていると感じた。多様性を認める、尊重する、ということは当たり前で、むしろそのようなスタンスではなく、多様性は当たり前に日常生活に溢れていることであると示しているようでもあった。また、毎年いろいろな国の文化のエキシビションなどを文化祭で開催するなどして、児童生徒がお互いの文化を体験する機会なども作られているということだった。Place Bridge Academy は

¹Place Bridge Academy <http://place.dpsk12.org/about-2/2013-2014-registration-information/>
(最終閲覧日/2016 年 10 月 10 日)

“Newcomer Centers”であり、デンバー市内から多くの子どもたちが学びにやってくるというのも納得できた。

この学校に通う子どもたち



生徒の出身地がピンで留めてある



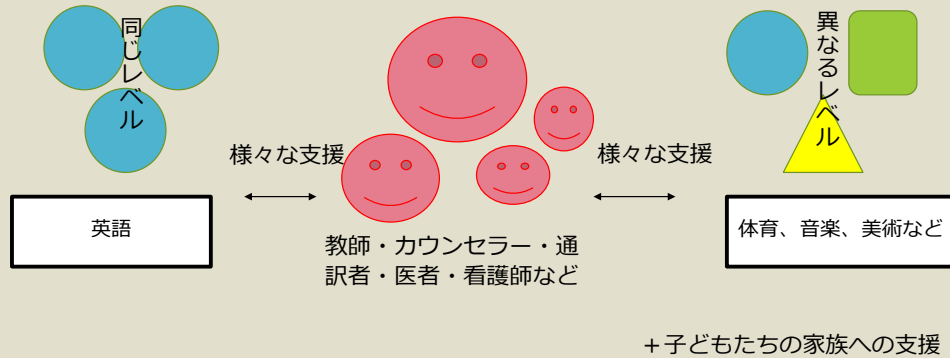
様々な選択肢

また、Place Bridge Academy では、学校内外との連携を通して、児童生徒はもちろんのこと、彼らの家族への支援、例えば英語を話せない父兄のために通訳をつけて子どもの様子について定期的に話し合いをしたり、近くにある医院の医師や看護師、カウンセラーなどが児童生徒のケアにあたったりするなどを行い、良好な学習環境の提供に努めているそうだ。

□Linda のクラスを見学して

Linda のクラスでは、英語教育はもちろんだが、子ども達、特に移民や難民などの英語学習の支援が必要な子どもやその家族をどのように支援しているのかという学校内外の仕組みについて詳しくお聞きすることができた。その中で、英語学習は同じレベルで組むがその他の実技系教科などでは、英語のレベルに関係なく授業を組む体制をとることで、英語学習でレベルにあった学習をしつつ、様々なレベルの他の児童と関わりが持てるような仕組みになっているところが、子ども達が狭い範囲でなく広く様々な児童と関わることのできる機会を生んでいると感じた。

LINDAのクラスを見学して



ちなみに Linda にも、どのように教材を作っているのか聞いてみると、SNS ではなかったが彼女も Web Site²から情報を得て、クラスの子ども達に合うようにアレンジしているということであった。

(3)DCIS

**DENVER CENTER FOR
INTERNATIONAL STUDIES
(DCIS)**

Middle school + High school
 マグネットスクール
 生徒数 700人
 全生徒が第二言語のクラスを取っている
 (当時は夏休み真っ最中)
 こちらの学校も
 7月に前年度がおわり、新年度の準備中

² Teachers Pay Teachers <https://www.teacherspayteachers.com/> (最終閲覧日：2016年10月10日)

DCIS（Denver Center For International Studies）はデンバー市内にある、中高一貫の公立校である。こちらの学校も同様に国際色溢れる校風で知られている。世界各国からの留学生も多く在籍しており、日本から来た生徒もいる。

また、全生徒が第二言語のクラス（・スペイン語・イタリア語・ラコタ語：アメリカンインディアンの一言語・日本語・フランス語・中国語・アラビア語・（韓国語））を取る必要があり、専任の教師陣がいるなど外国語学習に力を入れている。また、アートプロジェクトをはじめ中東地域、東アジア地域学習など国際的な視野で物事を考えられる力を養うための独自のカリキュラムが組まれているのも特徴である。このような、独自のカリキュラムを組む公立学校はアメリカでは、マグネットスクールと呼ばれ、国内に多く存在する。今回は、上記の学校同様夏休み期間ではあったのだが、日本語を専攻しているという生徒を中心に、数名の生徒が学校内を案内しながら、DCIS の特色を紹介してくれた。



また、この日はロッカーの鍵の開け方を教えるために上級生と9月から新入生となる生徒がたくさん登校しており、映画やドラマで見るようなアメリカの高校生生活を間近で見ることができた。

マグネットスクールとは

マグネットスクールとは

マグネット・スクールとは、アメリカ合衆国発祥の公立学校の一種である。魅力的な特別カリキュラムを持つため、郡や市、学区あるいは周辺地域に至るまでの広範囲から、子供たちを磁石（**マグネット**）のように引き付ける学校という意味で命名された。

参考資料

Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%82%B0%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%BB%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%83%BC%E3%83%AB>

なお、アメリカでは他にもチャータースクールと呼ばれる学校も近年増えてきている。チャータースクールとは、親や教員、地域団体などが、州や学区の認可（チャーター）を受けて設ける初等中等学校で、公費によって運営。州や学区の法令・規則の適用が免除されるため、独自の理念・方針に基づく教育を提供。

参考資料

アメリカ合衆国のチャータースクールについて

<http://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/2bunkakai/dai5/2-5siryou5-2.html>

□マグネットスクール DCIS としての独自の取り組み

DCIS は上記のようなマグネットスクールであるため、独自のカリキュラムで学びたい生徒がデンバー周辺から集まってくる。DCIS の独自のカリキュラムは International Studies であり、国際色豊かな取り組みを数多く取り入れているという特徴がある。その校風を表すかのように、校内装飾には各国の国旗や地球儀があったり、世界時計や生徒によるアートプロジェクトの作品があったりと、校内の至る所で DCIS の特色を見ることができた。

DCIS のホームページにも、DCIS はこのめまぐるしく変わる世界の中で、広い視野を持ち、じぶんたちでさまざまな問題を解決していく生徒を育てることを目指すという校風が打ち出されており、その一環として行われているユニークな取り組みに「模擬国連」があった。

「模擬国連」では、生徒たちが様々なトピックについて議論することができる。例えば、環境問題や世界平和などトピックは多岐にわたる。また、International Competition などの弁論大会へ出場するなど、自らで問題に向き合い、自分の考えを発信するという土壌が学校の取り組みを通して根付いている様子を知ることができた。

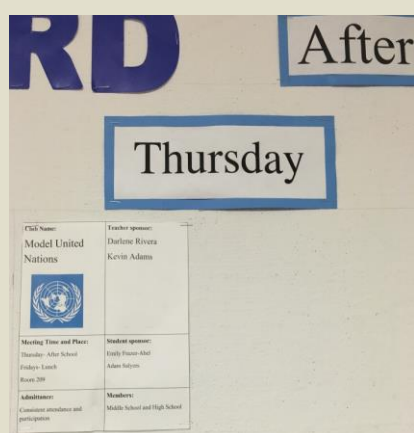
DCIS で行われている International Studies は下のようなものがあり、それらの教育の一環として、共同研究も行われているということだった。研究のテーマは、例えば、地域の慣習というような身近なテーマから、

International Studies Foundations

- *Cultures & Cross Cultural Communication*
- *International Studies & Issues*
- *World Geography*
- *Comparative Governments*

民族虐殺、アメリカの移民の歴史、ネイティブアメリカンの歴史など多岐にわたる。学んだ知識を、自分の考えに生かしていく過程がさまざまな手法で設定されており、生徒たちは様々な角度から世界を見る力を得ているということがわかった。また、なにより、このマグネットスクールを選び積極的に様々な活動や学びを楽しんでいる姿を案内してくれた生徒やこれから期待いっぱいに入學してくる新入生から感じることができた。

MODEL UNITED NATIONS



また、DCIS は Travel Center という機能もっており、生徒たちに積極的に旅行をすることを推奨している。生徒の旅行を推奨するため、旅行の相談ができる資料室や各国のガイドブック、旅行情報の掲示板などがあり、デンバーからアメリカ国内外に目を向け、生徒たちが様々な体験ができるような取り組みを積極的に取り入れている様子を知ることができた。

TRAVEL RESOURCE CENTER



多文化社会アメリカ

今回、アメリカを訪れた際、アメリカ国内では次期大統領選の話題で盛り上がりっており、街の至るところに某大統領候補のパロディ商品が並んでいたり、出会った人々とは必ずと言っていいほどこの話題になったりするなど、アメリカ大統領選はいま一番ホットな話題であった。

THE ELECTION



今回私たちのツアーで英語のレッスンをしてくれた Jan 先生からも、私たちのリクエストに答えて「大統領選」と「難民移民」についての特別授業をしていただく機会があった。そこでは、普段日本で暮らす者にはなかなか馴染みのない上院 Senators、下院 Representatives の相違点や、アメリカにおける司法・立法・行政の仕組みなどを丁寧に詳しく教えていただいた。例えば、アメリカは二大政党制であることで知られているが、他に政党がないというわけではなく、他にも LIBERTARIAN Party や GREEN Party をはじめとする数多くの政党があり、それぞれが大統領、副代表候補を擁立しているという。アメリカは民主党と共和党の2つの政党が代表的で有名だが、日本と同じように、他の様々な政党があることにとても驚いた。また、投票できるのは18歳以上のアメリカ市民だが受刑者などは刑期を終えて2年間は投票する権利がないというのも初めて知り、国のシステムも様々なところで異なっていることを実感した。

大統領選と合わせて議論されている「難民移民」についても、Jan 先生の所属していた難民移民のための英語学習施設での例などを挙げて説明していただいた。経営上、難しいことは多々あるが、難民移民の人々がアメリカで生活基盤を作る大きな基礎となる語学を教えるということの意義や、その後もその人々のアメリカでの生活を支援していく体制が大切であることなどを教えていただいた。しかしながら、いまアメリカ社会では大統領選や世界情勢などに関連して、移民や難民の受け入れに関する議論も起きており、移民難民排斥を訴える人々もアメリカ国内に存在するという。実際、某アメリカ大統領候補は、不法移民を排除するためとして数多くの移民の出身地であるメキシコとの国境に壁を作ると訴えるなど、より深刻な問題となっている。やはり、今一番アメリカ国民が関心を寄せている話題であるということもあって、ホストファミリーとも何度か大統領選や移民難民についての話をしたことがあった。ホストマザーは現在小学校の校長先生をなされている方で、自身の学校にも出身やアメリカまでどのように来たか定かではない、つまり、不法移民と疑われる子どもたちもいるという。この現状に対しホストマザーは、「どんな出自であれ教育を必要としている子どもに教育を提供する。それは私が考える正しいことだ。」といていた。不法移民についてはヨーロッパをはじめとする世界で大きな議論になっていることでもあり、それを問題として考える側面があることも頷けるが、私はこのホストマザーの一言に、どのようにアメリカ社会が今日まで成り立ってきたのかということが凝縮されているような気がした。Jan は英語の授業の中で、アメリカはかつて様々な人種が溶け合い

一つのアメリカという国を作っている様子を例え、人種のるつぼ Melting Pot と呼ばれていたことに触れた。私のかつてのアメリカに対する認識も、そのようなものだった。様々な人々がアメリカという国に住む者としてひとつになるというようなイメージであった。しかしながら、はじめてアメリカに行った時、アメリカという国を知れば知るほど、アメリカを一言で表そうとしたときに、私はひとつの言葉で括ることができない、ということを感じた。そして今回コロラドを訪れた際も同じことを感じた。と同時にそれこそがアメリカの良さである、とも感じた。今回のツアーでは、たくさんの方々との出会いを通して、アメリカ社会は、様々な人々が溶け合う、というよりは、それぞれの人々がもつバックグラウンドが独立して尊重されつつ、ひとつの社会が作られている様子を伺えたのも、そう考える一つのきっかけであった。ひとりひとりのアイデンティティがひとつのものに括られるのではなく、それぞれがそれぞれの価値観を有することが前提に社会が成り立っている。それは Jan が授業で私たちに教えてくれた、アメリカ社会は今、人種のるつぼからサラダボールへと変化しているということを表していると思った。そんなアメリカ社会で、様々な出自を持つ子ども達に対してどのような教育やそれに伴うケアをしているのかということについて実際に現地の学校に訪問し、先生方や生徒達、ホストファミリーと話し合えたことはとても貴重な経験であった。そして、今日の世界情勢などによって、アメリカもまた多文化社会というものを改めて捉え直している、そんな時期に、人々との出会いによっていまのアメリカ社会全体の空気を感じることもできた。アメリカという国は、何かしらの形で日本に住む私たちの生活の中に密接に関係している国であり、アメリカから入ってきたあらゆる文化を私たちは吸収し、慣れ親しんだものとして日々触れてきている。しかし、そうであっても、まだまだアメリカという国について知らないことはたくさんあり、実際に行ってみてもいまいち自分の中でうまく解釈できないことも多かった。今回のスタディツアーでも、新たな発見や疑問が生まれ、英語教育だけでなく、あらゆるひとが生活する社会のありかたというものを考えるきっかけが増えた。また、ひとりひとりの人間の違いは、なにも人種や民族などの括りに限ったことではなく、身近にいる一人ひとりの人間が持つ個性や特性をどう生かしていくのか、まわりの人たちとともにどうお互いに成長させる手助けができるのか、考え続けていくことが大切であると改めて感じさせてくれるツアーでもあった。

スタディツアーのようす

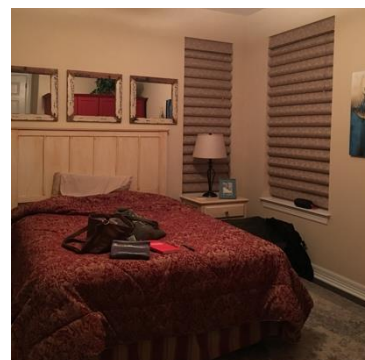
Day 1 Sat, July 30th, 2016

- Denver International Airport
- Dinner with Host Family



とても広い道路とアメリカらしいピックアップトラック

お世話になったお部屋



Day 2 Sun, July 31st, 2016

- Red Rocks
- Greek Restaurant
- Sports Authority Field at Mile High
- Coors Field
- Denver Museum of Nature And Science
- Denver City Park

滞在中、Coors Field に
てイチロー選手300
0本安打達成のビッグ
ニュースも



Day 3 Mon, Aug 1st, 2016

- *Lake Isabel*
- *County Fair*
- *Boulder Tea Room*
- *Pearl St.*
- *The Cheesecake Factory*

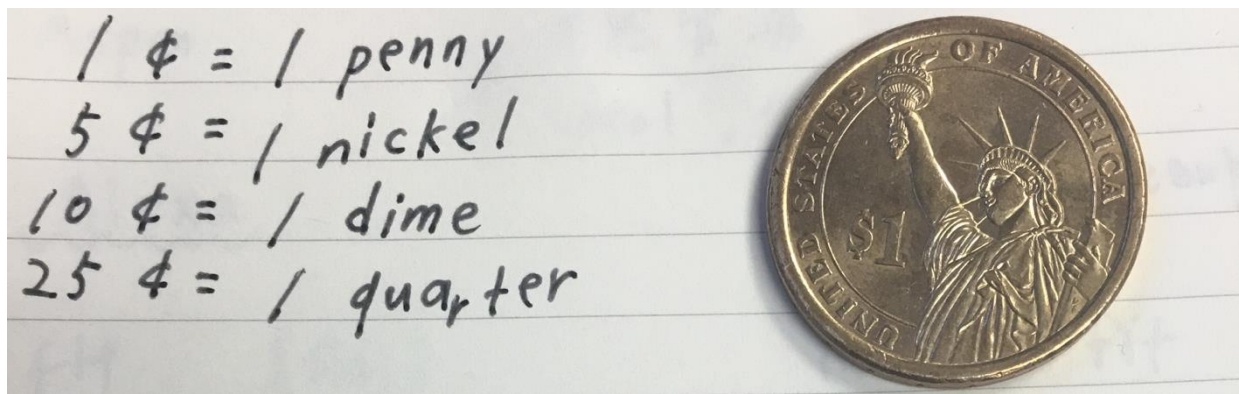
ロッキー山脈に感動。

ますます山が好きになる景色。



Day 4 Tue, Aug 2nd, 2016

- *English/Culture Class*
- *Food Trucks in Downtown Denver*
- *Capital of Colorado*
- *Catholic Church*
- *Tattered Cover Bookstore*



めずらしい1ドルコインとともにアメリカの硬貨について学ぶ。

アメリカの都市を電車で結んでいくボードゲーム。

ホストファミリー曰くアメリカの子どもはこれでアメリカ国内の地理的感覚を覚えるらしい。



大麻保持使用が合法的デンバ
ーらしいお土産品

Day 5 Wed, Aug 3rd, 2016

- *Boulder Public Schools*
- *Colorado University Boulder Campus*
- *Tacobell*
- *JoAnne's Summer Camp*



カタカナで名前を書いてあげると喜ぶ子ども達。



予想以上にアメリカの子ども達に受けたサルカ二合戦の紙芝居。

大のゲーム好きの
HOST FATHER
に勧められて
Pokemon Go を
してみるとデン
バー市内にうじ
やうじやいるポ
ケモン達。この
日以降、HOST
FATHERとの主
な会話内容は、
その日にゲット
したポケモンの
種類の報告とな
っていく・・・。



Day 6 Thu, Aug 4th, 2016

- *Pre-School Observation*
All Abroad Day Care
- *Whole Foods Market*
- *English/Culture Class*
- *Trader Joe's*
- *JoAnne's group Meet Up*



やんちゃだけどもきちんと先生の言うことを聞く保育園児の子ども達。

この後、小学生に受けたサルカ二合戦の紙芝居や日本語のお遊戯をするも、ポカーンという表情を浮かべて固まる子ども達。すべりながらもなんとかやり通す・・・。折り紙にはみんな興味津々で楽しんでくれて、一安心。



小学生アシスタントの Jose 君。面倒見のいい優しいお兄ちゃん。おりがみを教えると自分で作ってみたい！と意欲満点。すぐに鶴の折り方と小さな箱の作り方をマスターして小さい子達に教えていました。

そんな Jose 君は、最後には素敵なプレゼントをくれました。



一般ツアーのみなさんと一緒にアメリカンサイズピザ・・・Too much の連呼。



山形にきたことのあるデンバー近郊の中高校生との交流。素敵な出会いに感謝。

Day 7 Fri, Aug 5th, 2016

- *Children's Museum*
- *MODERN MARKET GLENDALE*
- *Linda's school classroom*
- *Teacher Resource Store Lake Shore*

ホストファミリーの作るアメリカンな朝食。
和食が恋しい日々・・・だけど、和食に負けないくらい美味しい。



Day 8 Sat, Aug 6th, 2016

- *Westminster's Farmer's Market*
- *Lunch with teachers*
- *Costco*
- *Preparing Imoni for a party*

Day 9 Sun, Aug 7th, 2016

- *Practicing HANAGASA*
- *Japanese American Picnic*
- *Outdoor Mall*

コロラド日系人会ピクニックで
芋煮を宣伝。庄内風も山形風も
大人気で長蛇の列が。





コロラドと山形の姉妹州県30周年ということで吉村知事も日系人会ピクニックへ



花笠踊りも無事成功！

Day 10 Mon, Aug 8th, 2016

- *English/Culture Class*
- *Sister City Luncheon*
- *Botanical Garden*
- *16th Street in Downtown Denver*
- *Phil's Office*



Jan 先生から修了証を頂きました。

今回は私たちの要望に応え、本当に様々なことを教えていただきました。「日本に帰っても、いつでも私に聞いてね」と頼もしい先生。



コロラドと山形の姉妹州県30周年記念 Luncheon

Day 11 Tue, Aug 9th, 2016

- *English Lesson about the Election in the United State in Green Café*
- *Food truck in Downtown Denver*
- *Denver Art Museum*
- *Cherry Creek Mall*

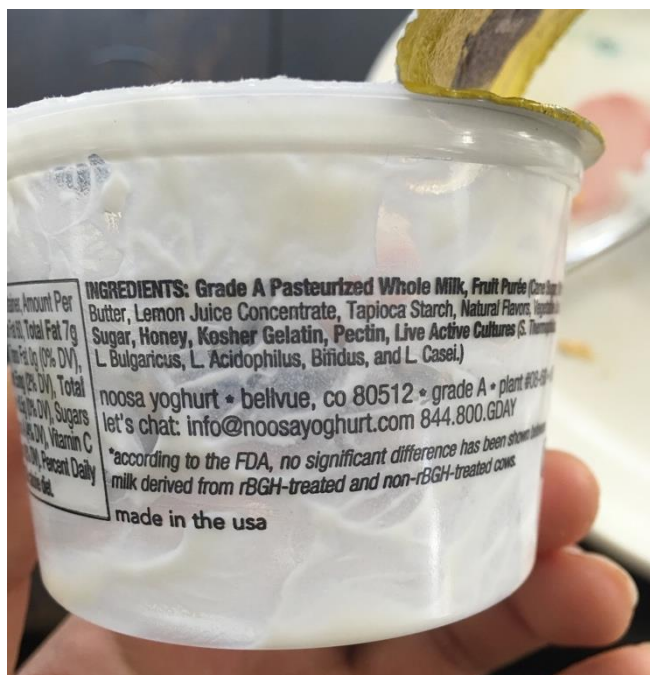
いたるところにあるトランプ氏のグッズ。

いろいろな意味で、人気者なのか？



Day 12 Wed, Aug 10th, 2016

- *DCIS(Denver Center for International Studies)*
- *English Lesson about refugees and immigrants in Colorado*
- *Elementary Teacher Share Activity*
- *Whole Foods Market*
- *Cherry Creek Mall*

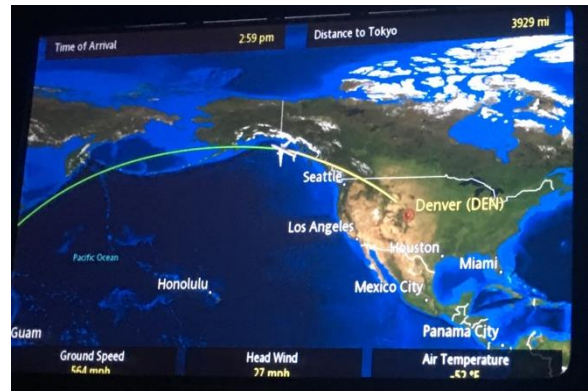


ユダヤ教徒の食事規定 KOSHER に配慮した食品であることを記してあるヨーグルト。

ハラールやコーシャーなどの表示にも
アメリカの多文化性が。

Day 13 Thu, Aug 11th, 2016

- *Denver International Airport*



社会科の教科書でしか見たことがなかったセンターピボット方式の農業。ほんとうに
広い地域をまたいでずっとこのような景色。



Good Bye アメリカ！また今度。

最後に

最後に、今回のツアーを企画、引率していただいた出羽庄内国際村様、佐藤幸様、佐藤綾子様、スタッフの皆様をはじめ、中島那美子先生、生徒の皆さん、村治様、Janice Humphrey 先生、Sotiros 家の皆様、学校訪問でお会いした先生方のおかげで今ツアーでは貴重な体験をさせていただき、充実した日々を過ごすことができました。スタディツアーでお世話になったすべての方々に感謝を申し上げ、報告書の結びとさせていただきます。ありがとうございました。



Joining and enjoying Colorado Study Tour

～子どもの英語教育を学ぶコロラドスタディーツアーに参加して～

July 30 ~ August 9



中島 那美子 Namiko Nakajima

【参加の理由】

- (1) 英語の教員をしているのに海外にでかけていない
 - ・ 日々の業務に忙殺され、英語が話されている国にずっと行っていない。今年は少しチャンスがあるので、思い切って参加することにした。
- (2) 小学校との交流授業
 - ・ 働いている高校の生徒と、小学校の児童の交流授業が計画されている。第2言語としての英語を子供にどうやって教えてゆくのか、アメリカではどうなのか、に興味があり、自分の目で見てみたかった。
- (3) YIA
 - ・ Youth in Action は毎年中央高校を訪問してくれている。毎年別れ際に「また会いましょう」というが、いつも来てもらうばかりでいいのか、という思いがふつふつとわき始めた。この機会に活動場所に赴いて、毎年の訪問にお礼を言いたいと思った。
- (4) 国際村さんにも恩返し
 - ・ 仕事でも私的にも国際村さんには大変お世話になっている。勤務校での外国の方との交流では企画の段階からいつも村さんの支援をいただいている。とても感謝している。その感謝を口で申し上げているより、このような事業に参加して謝意を表したいと思った。(それに、強力なスタッフが二人も添乗してくれるツアーなど他にはないので、安心して旅行、研修ができると、まさに大船に乗ったような気持ちで参加しました。)
- (5) コロラド州と山形県が姉妹都市なのは、どんな理由か
 - ・ 姉妹都市になっているのは、気候風土だけなんだろうか、と以前から思っていて、違いとか、類似点とかをぜひ見たい、聞きたいと思っていたため

【Before Departure】

久々の海外になにをどうしたらいいかすっかり忘れてしまっていたので、準備は結構大変だった。期限切れとなったパスポートを更新。写真は気に入らなくて2回撮りなおしをした。スーツケースを新調したり、お土産を考えたり。しかし、土日祝日もフル稼働する生活では、思い付きで動くしかなく、持っていくものを揃えに店に行く度に国際村さんにメールを送って確かめた。私が以前に行っていたときは入国ビザはなく、ESTAも国際村のスタッフに手取り足取り教えていただいた。担当している生徒の「職場体験(インターンシップ)」や「イングリッシュキャンプ」が8月10日前後に入っていたことや、家のことも考え、自分のやりたいこととやるべきことを両立させる難しさも実感して、短い日程で参加させていただくことにした。ぎりぎりまで決められなかったが、辛抱強く連絡をとってくださった国際村さんには本当に心から感謝している。仕事がつまってきた、私の中では「行けないかも」と弱気になったりもした。そんな中で村さんはいつも前向きに励ましてくれ、無事に出発できた。

【2016.7.30 Departure】

出発の前日は夜まで仕事をした。出発の日には4時半に起きて準備の再確認をした。到着まで、そしてその日寝るまで一昼夜睡眠はとれないとは思ったが、うれしくて寝ていられなかった。

庄内空港、成田空港、長い待ち時間。いろいろな年齢層の人が集まって、このグループはいったいどんなグループだと思われるのか、と、一人好奇心。それにしても、私は成田空港が大好き。日本なのに、日本だけではない、というところがたまらなく心地いい。お昼は鉄火丼を食べました。



飛行機に乗って、隣にどんな方が座るのかと思いきや、アメリカ人と思われる体の大きな方がお座りになりました。20代前半とみた。Tシャツを着ていて、胸にはPOKEMON TRAINER。わざとではないのですが、座席からはみ出て、腕がお互いに接着。飛行機の中は寒かったので、カイロの隣に座ったようで、助かりました。

それにしても、UNITED AIRLINES のエコノミー席サービスは、スピーディーで、ドリンク、スナック、ディナー、デザートまですごいスピードで、そんなに速く食えないよ、という感じ。終わったら、ぱっとライトは消され、あとは寝て、ということ。クルーのみなさんは後ろでずーっと談笑していてその話題の多さに楽しませてもらいました。私はもともと飛行機では眠れないたちで、しかも今回はスペースが狭くて居心地が悪く、最後まで起きていました。それで気が付くのは、トイレに行くのは日本人が多いこと。周りの外国の方たちはトイレに立たない。不思議不思議。10時間観察してました。

【2016.7.30 ARRIVAL】

入国には時間がかかったかと思います。個人認証、入国、税関、と私にとっては心踊る経験で、楽しい(?)ばかりなのですが、もちろん、顔つきは神妙にしていたましたが、空港スタッフの方の一举手一

投足がおもしろくて心の中は沸き立つようでした。国際村スタッフは真剣に対処されていてそんな自分が申し訳なく思いました。無事入国し、到着口に行くと、ダイアンさんがお迎えに。「さあ、行きましょう。」ということで、ツアーのメンバーやほかのスタッフと話す間もなく迎えの車へ。

空港を出ると、日差しが痛い。飛行機の中で日焼け止めを塗ってきてよかった。この暑さは鶴岡と変わらないんだ、と少し失望しながら20分ほどでステイ宅に到着。ホストはDiane Deschanelさん、Greg Ruffさん、猫のSammy。以下、ダイアン、グレッグ、サミーと表記します。

ダイアンはかつて学校の保健室の先生をしていて、グレッグはエンジニア、サミーは保護施設からもらわれてきた、という簡単なプロフィールをお聞きしました。

着いてすぐ家の中を見せていただきました。家の中はとても涼しくて、でも、クーラーとかはなし。湿度が低い感じがしてとても気持ちが良い。部屋はシンプルですが、ホテルのように美しく、また、私専用のバスルーム（ゲスト用）があり夢のようでした。また、平屋でとても機能的なおうちでした。ひとめで快適に過ごせそうでした。



ちょっと話をして、24時間ぐらい寝ていない私は少し休みたかったのですが、

ダイアン「ナミコ、デンバーは公園がきれいなのよ。公園を見せたいわ」

グレッグ「いや、ナミコはついたばかりで荷ほどきをしたいんじゃないか」

という会話があり、私は意を決して「公園に行きましょう」と言い、街の中の観光へ。広大で美しい公園を見てから、街を散策。そうしているうちに川での水遊びに遭遇。山形県の内陸地域でもこのような川遊びをすることがあり、海がない遠い地域でも、「涼のとりかた」は共通するなあ、と思いました。その隣のちょっとしたあずまやでは、男性同士の結婚式が行われていて、ダイアンと二人で遠目ながら見せてもらいました。

夕食は中庭のダイニングテーブルで。自分のこと、鶴岡のこと、デンバーのこと、お二人のこと、たくさんお話ししました。市からいただいてきた鶴岡冊子と、「フリーズドライだだちゃまめ」は有用でした。10時になると、ふたりは「さーっ」と寝てしまいます。その速さがすごい。ならって私も爆睡、のほろが、いくら疲れていても体は日本時間で、夜中に目が覚めました。



【2016.7.31 With Host Family】

朝はゆっくり起きて、ブランチ。雑穀のザリザリするパンと、チーズ、フルーツなどなど。サクランボがおいしくてそればかり食べていました。「今日は山に行きましょう」と、ダイアン。言われるがまま車に乗って長めのドライブ。行くうちにだんだん景色が変わり、道路沿いの木々の種類も変わっていく。ついに木はなくなって、岩山ばかり。ロッキー山脈の所以。湖があつたりして写真を撮ったりしているうちに雪が降ってきて、とても寒い。ダイアンが持って行ってくれたコートがありがたい。そして、頭が痛い。息が切れる。風邪をひいたかなあ。いや、これがうわさに聞く高山病か。「ダイアン、頭が痛い」というと、「水を飲んで」。「このあと、どうなるのかな」とグレッグに聞くと、「下りれば治る」とのこと。その通りでした。この日の夜、撮った写真を日本の家族にメールで送ると、兄から「おまえ、どこに行ったんだ」と返信が。「富士山より高い山に徒歩で登ったのか?」「・・・いいえ、車です。」写真をよく見ると山の高さは14,130フィートで約4200メートル。こんな山に登った（車で行った）のかと思うと、びっくりしました。高山病にもなって当然。そのこともびっくりですが、そんな高い山にもきちんと自動車道路が整備されていて、なんの装備もなく観光客が普通に行ける、というのがもっとびっくりしたことです。さすが、アメリカ、という感じでした。



山からおりてきてすぐの夕方、「今夜は音楽を聴きながらピクニックをしましょう」と別のところへ出かける準備。「夜にピクニック？」と思いながら椅子や簡単なお弁当を持ってついていくと、昨日訪れた公園へ。公園にある湖のそばにあずまやがあり、そこで、何組かのバンドが演奏していました。その周りにはとてもたくさんの人がいて、椅子や敷物の上で、音楽を聴きながらピクニック。向こうにはフードトラックがあり、そこで食事を買っている人も。ほとんどが家族連れでみんなにこにこして幸せそう。私もすごくいい気分でした。

外は8時半ぐらいまで明るく、涼しく、また高地で乾燥しているので虫がいないから、外での食事には最適。みんなで食べ物を持ち寄れば、家事負担も少なく、なにより、別々に暮らしている家族、親せきと楽しく過ごせる。とても合理的だと思いました。このイベントは毎週行っていて、お母さんや奥さんが夕食を作る手間を省く、という意味もあるとか。野外コンサートともいえるべき規模なのに、日常的に行われていることに感心しました。皆さんマナーが良く、ごみは持ち帰り、そんなに酔って大騒ぎする人もなく、とても楽しい夕食でした。

家に帰る時、「ナミコ、明日は私たちの結婚記念日なの。夜は別々に食事しましょう」とダイアン。しまった。なにかプレゼントを持ってくるべきだった、と反省。と思っていると、グレッグに電話がかかってきた。ゴルフの約束をしていた。おふたりで明日のことをお話ししていたが、いきなりダイアンが、「結婚記念日なのに、ゴルフをしてしかも昼は男友達とランチなんて！」とほほえましい夫婦げんか。グレッグは「女もいるよ～」と軽く応酬。もちろん二人とも笑っている。夫婦げんかの種はユニバーサルなのだと納得して、私はその会話には加わず自室に戻りました。

さあ、明日から研修、と気合を入れながらサミーとちょっと遊んでこの日は終わりでした。



【2016.8.1 Lake Isabel. Boulder Tea room , Pearl Street】

朝は 5 時に起床。ダイアンは起こさないで自分で朝食をつくり出かける支度。外はまだ少し薄暗く、もやがかかっているのですが、中庭の景色が美しく、一人の朝食もとても楽しい。と、ゴルフに行くグレッグも起きてきて、行ってきます、と家を出た。

迎えは英会話講師のジャン先生。今日は午前中はイザベル湖にハイキング。途中鈴木先生と佐藤さんのステイ先にうかがって合流。

イザベル湖では中高生たちと合流しましたが、私はハイキングは辞退して、ジャン先生と英会話のレッスン。私はこの研修旅行を早く切り上げて帰ってしまうので、受けられない分のレッスンをここでしましょう、と、なんとピクニックテーブルで英会話教室。ロッキー山脈の雄大な自然に囲まれて英語の授業を受けるなんて、思いもよらず感動しました。お昼はジャン先生が作ってくれたサンドウィッチをいただきましたが、ハイキングチームが下山してくるまで時間がかかり、おなかが減ってきました。実は朝グレッグから、山での活動の時は何があるかわからないから、と、軽食を持ってゆくのをすすめられ、サクラランボやメロン、チーズやクラッカーをバッグに入れてきていました。ちょっとしたことですが、地元の人々のアドバイスを聞いて、住んでいる人みたいに行動したことが私にとってはプチ幸せなできごとでした。

午後は Celestial Seasonings というお茶の工場に行きました。何種類かのお茶を試飲し、お土産をちょっと買って、ボルダー市の散策に移りました。

今夜はジャン先生、鈴木先生、佐藤さんと、ボルダー市のパールストリートという街で夕食。ゆっくりしてしまって、帰りが少し遅くなりました。

家に帰ると、ダイアンとグレッグはほろ酔いでご機嫌。

ダイアン「ナミコ、すごく楽しかったわ！シーフードの店に行ったの！牡蠣が 10 種類もあったの！」私（「牡蠣ってそんなにいろいろいるのか。さすがアメリカ。」）ダイアン「月曜日には新しい牡蠣が入るの！また行くわ！」ととても幸せそうなお夫婦におやすみなさいを言って、自室に行くと、箆笥の上でサミーが待っていてくれました。結構疲れていましたが、サミーを見て元気が出ました。



【2016.8.2 English class with students and Capitol tour】

Spring Institute のジャン先生から英語のレッスンをいただく。中高生と一緒にでした。自己紹介、早口言葉、アメリカのお金の使い方、ゲーム、迷信について、ホストファミリーにこう言われたら、こう質問してみる、などなど、話題がどんどん変わって、とてもとても楽しい授業。オールイングリッシュ3時間休憩なしの授業なのに、中高生は全然へこたれずに一生懸命ついていっていました。私は学生に戻った気分以至福の時でした。

お昼はキャピトル、県庁、の前の広場でフードトラックから好きなものを選んで食べました。広場のそばの緑地にみんなで座ってピクニックのような感じ。すごくいい天気で暑いのに、木陰はとても涼しい。そこをいろいろな肌の色の人たちが通ってゆき、アメリカに來たんだなあ、と実感。またもや持参してきたサクランボも食べました。

午後はキャピトルの中や周辺を散策。尾籠な話になりますが、ここで私は鼻血が出ました。コロラドに來ると、乾燥や海拔のせいで鼻血が出ると、伝説のように聞いていましたが、ついに私も経験しました。キャピトルの中は、特に丸天井の装飾が美しく、歴代大統領の肖像画も見事でした。鉱山地帯として発展してきた州の歴史も学びました。裏手にはネイティブアメリカンの彫像があり、それと同じポーズをして写真を撮ることに成功しました。そのあと、教会に行ったり、街の散策もしました。大通りにはステイしているところとは違って、そのまま座っている方とか、同じところを車いすでぐるぐる回る方、意識がはっきりしていないような方、など、いろいろいて、都会的というか、アメリカには限らないけれど、これは今も昔も変わらず、都市の一部を見た感じでした。16th Street Tattered Cover bookstoreでのショッピングを楽しみました。面白い顔をしている動物のブックマークがあり、読書が好きなグレッグとダイアンにお土産として買いました。



夜はダイアンが「ピザを食べに行きましょう」というので、3人でピザ屋さんに歩いていきました。「小学校の先生をしていた友達も呼んだの」ということで、4人で pizza night。私が教員をしているので、話が合うのでは、と学校関係のお友達を招いてくれたようで、そういう配慮がとてうれしかったです。でも、その方を含めて4人の会話はなぜか、トランプさんとクリントンさんの話題でした。途中警察官がトイレを借りにやってきて、その方を見た後は、銃社会についてグレッグから講話。グレッグは銃の所持には反対で、私は、他国のことなので何とも言えないが、そんな社会は恐ろしい、と感想を言いました。ピザを食べているときスコールが降ってきて、雨は降っているのに日光はさして、その光が雨や木の葉にきらきらと反射して、その美しい光景は今も心に残っています。

さて、家に帰って、明日からバスで待ち合わせ場所に行くからバス停までの道を教えてほしい、とダイアンに話しました。簡単な地図を書いてもらいましたが、私はすでに大通りに出られるもの、という前提の地図で、しかし、私は玄関を出てから右か左かもわからず……。二人の話がまるでかみあわず愉快でした。結局次の朝はダイアンがバス停まで車でおくってくれることに。早起きさせて申し訳ないことでした。



【2016.8.4 Boulder Public Schools】

朝はバス停までダイアンに送ってもらう。ほら、すごく近いでしょ、と言われたが、私には来た道が全然わからない。しかも、「一方通行があるから、今日は別の道路を来たの。ナミコが歩く道はちょっと違うのよ」とあっけらかんとしたダイアン。苦笑する私。バスに乗ると、すぐにバス代を料金箱に入れて払うのですが、おつりは出ない。お金を間違えたりするとその場で降りなければならない。私はあらかじめお金を確認し、にぎりしめてバスに乗りました。バスにはいろいろな人が乗っていて、ちょっとおしゃべりしたりして楽しめました。20分ぐらいで待ち合わせ場所に着く。

午前中はボルダー市にある小学校のリサ先生からお話をうかがった。私は漠然と、アメリカの小学生は小学校に入るまでは文字を読むぐらいはするのか、と思っていたが、ABCどころかペンを持ったことがない子供もいる、というお話だった。幼稚園にはいけない子供もいるし、移民の子供もいるし、いきなりペンは持てないからスプレーや砂でトレーニングするのだということだった。また、ニンジンはおレンジっていう色なんだ、ピンクはこういう色のことをいうのだ、とも教えていくとのこと。Aもわから

ない子から自分で本を読む子までレベルもいろいろ。でも、先生はとても熱意を持っておられて、少しも苦ではない、と言い切っておられた。教室は色とりどりの教材でいっぱい、それはうらやましかった。

この後、コロラド大学のキャンパスを車から見て、タコベルで昼食。トイレの入り口のドアが開かなくて閉口した。ホームレスがすーっと入ってゆく時があるので自動で鍵がかかる時がある、というお話だった。

午後は Colorado Youth In Action の Jo Anne (以下 ジョアン) 先生が主催しているサマーキャンプを訪問した。教会のホールを借りて活動していた。中では小学校低中学年の子供たちが裁縫をしてぬいぐるみのようなものやドレスを作っている。小さい子が針を器用に使い、ミシンをかけている。高校生ぐらいの子やジョアンの息子さんがサポートをしている。そこで、私たちは出し物として紙芝居をお目にかけた。「かにむかし」という物語。私が勤務している高校の生徒が英訳したもので、数日で作ったものなので、あまりいい出来ではないが披露した。そのあと、鈴木先生が持ってきてくれた書道セットで名前をカタカナにして書いてあげた。私は書道もしていないし、筆を持つのは久しぶりだったが、「えいっ！」と勢いで書いてしまった。喜んでくれる子供たちがいいとおしい。そのあと、全員でかくれんぼゲームをした。子供たちはノリノリなのだが、私は見つけていない子供、隠れたままの子供がいるのではと心配で、人数ばかり数えていた。

キャンプが終わった後、ジョアン先生のご自宅を訪問。アジア好きなジョアンの家は日本やインドに行った時の小物がたくさんあった。そのうちに旦那さんのジョンさんが仕事から帰ってきたので、夕食に連れて行ってもらった。ハンバーガーのレストランで、食べきれず、持ち帰りにしてもらった。会話をしていると、なーんか変だな、と思うようになった。よくリスニングしていると、ジョンが時々おやじギャグを言うのであった。自分で言って自分で笑う。ジョアンや息子さんのジョンは慣れてしまっているのに笑わない。やっと慣れてきた私はおかしくて笑ってしまう。とても愉快的ディナーでした。

ジョアンとジョンに車で家まで送ってもらった。市内を通るので、ちょっとした夜景観光。昼に見たキャピトルや裁判所などがライトアップされて美しかった。デンバーコンベンションセンターにいた、大きな熊のオブジェ、(ブルーベア) と写真も撮りました。デンバーの街の通りはアルファベット順に名前が付けられていて、探すのが簡単になっている、というのも教えてもらった。こういう観光も地元の人と一緒だからできることだと思いました。

家に帰ると、グレッグとダイアンはまだ帰宅していない。今夜はブリッジの会。帰ってきたら、少し勝った、と二人とも上機嫌でした。



【2016.8.5 English Class, Youth in Action】

また、バスで待ち合わせ場所へ。とても楽しい。バスの運転手さんはとても親切。車いすで乗った人が降りる時は前のドアから自動的にスロープが出てきて、車いすの方がスムーズに降りる。ほかの乗客は一斉に後ろのドアへ。降りてから振り向くと、バスの前につけてあった自転車を運転手さんがおろしていた。自転車に乗ってバスにも乗れる。

午前中はプレスクールへ。小さな子がたくさんいた。お遊戯を見せてもらったり、歌を歌ってくれたり。私たちは紙芝居を読み、折り紙を折ったり、絵を描いてあげたりした。0歳児の保育の様子も見せていただいた。お昼寝の様子や食事の様子も見せていただいた。特に食事は、テーブルの中に椅子がはめ込まれていてそこにすっぽり座ってみんなで食べるスタイルでした。お皿を使わないでそのまま机から食べるタイプで、とても面白い食べさせ方でした。

ランチは4人でサラダレストランへ。

午後は English class. 中高生はとても英語がわかるようになっていて、2、3日でこんなに上達するのかと思いました。道案内やカードを使った会話など、帰国したら使えるものがたくさんあり、そして、帰ってからすぐに授業で使いました。

夕食は参加者、スタッフ全員でピザレストランへ。私はパスタを食べましたが、ほかの人が注文したピザの大きいこと。映画やテレビで、ピザを一切れしか食べない、というのを見て、そんなんで足りるのか、と思っていましたが、これをみたら、すごく納得。一切れで一食分ありそうでした。

夕食後はジョアンと YIA に入っている生徒たちが集まってくれ、一緒に交流会。自己紹介をして、またもや、紙芝居。今回はいきなり中高生も巻き込んで、キャストになってもらいました。3人とも練習無しなのにきちんと演じてくれました。そのあと、中央高校を訪問してくれるたびに行っているフルーツバスケット in English. 次はジョアンが是非に、というので、花いちもんめをして、最後は flog なんとかというゲーム。あっという間に時間が過ぎ、楽しい交流会でした。来年はボルダーから日本にいらっしゃるとのこと。今から楽しみです。

8時ごろ、ダイアンが迎えに来てくれました。待たせて申し訳なかったと思いつつ、さあ、帰ろう、と思ったら、「ナミコ、友達の家に案内するわ」とのこと。保育士をなさっていたお友達のところへ。お友達は温泉旅行から帰ってきたばかりとのことで、スーツケースもそのままに、私たちを招いてくれました。100年以上前に建てられたお家の外観はクラシカルで、庭も花がいっぱいでとてもきれいでした。どうやら、ダイアンは私が見るのが好きだ、ということがわかったようで、その方のおうちも見せてくれて設定したようでした。家庭菜園や、二階の寝室、バスルームまで見せていただきました。その家のクロネコにも会って、楽しいひと時でした。



【2016.8.6 Children's Museum, Linda's School classroom 】

今朝も5時に起きて一人で中庭で朝食をとる。家の周りはとても静かで、住宅地とはいえ大都市とは思えない。今日は Children's Museum というところを訪問。子供を連れて行かないと入れない、ということなので、我々はどうするんだろうと思っていたが、日本から来た視察グループということで特別に案内してもらった。Museum というから展示なのかと思っていたが、中は広々として、いろいろな機能があり、ちょっとした amusement park だ。コロラドの自然や気候について知ったり体験したりできるコーナー、科学的な実験・体験ができるコーナー、日本のキッズニアのようなお仕事体験コーナー、アウトドア体験ができるスペースなど、盛りだくさんでした。子供がたくさんいてとてもにぎわっていた。施設はとてもきれいで、そのほとんどは寄付金でまかなわれていて、アメリカの個人の経済力みたいなものを感じた。案内をしてくれたスタッフのコミュニケーション力の強さにも感心した。

昼休みには WHOLEFOODS というスーパーに連れて行っていただきました。とても楽しく、夢中で買い物をしました。お土産はここで一気に買いました。ランチもここで買って食べました。



午後は Linda's school classroom, 二つ目の小学校を訪問しました。一つ目の小学校とは違う雰囲気で、世界各国から移民などの形で子供が集まっている学校でした。大きな絵本やその他教材を見せていただきながらお話いただきました。その絵本に書いてある英語の表現方法、字数などが参考になりました。制服の着こなし方を示した写真が掲示してあって、面白かったです。教材屋さんにも連れて行っていただき、発音練習装置と指差し棒2本を買いました。

今日は4時ごろで活動が終わり、ジャン先生に家まで送っていただきましたが、玄関の前で今回の研修の修了証をいただきました。思いがけずいただいてとても嬉しく、学生に戻ったようでした。短い期間ではありましたが、朝は5時から、夜は12時まで英語の研修に励んだことは私自身をよく頑張ったと思います。とても充実した時間でした。



その夜グレッグはどこかに遊びに行き、私たちはダイアンが作ってくれた料理を2人で食べました。ダイアンはいつになく落ち着かず急いでいて、なんだろうと思っていたら、今夜はリオデジャネイロオリンピックの開会式。中継をテレビで見たいダイアンはすごいスピードでディナーをつくり、食卓には5分ぐらいしか座らずにテレビの前へ。私も食事が終わり一緒にテレビを見ていましたが・・・電波をうまく受信しない。ダイアンの家はなんと室内アンテナしかなく、電波が不安定。テレビの上のアンテナの位置を調整する様子はまるで昭和の日本。ここはアメリカ・・・？ダイアンとグレッグの質素なローコストな生活ぶりを目の当たりにしました。アメリカというとラグジュアリーで物にあふれたガラガラした生活をしているようなイメージもあるけれど（その逆の、極端なイメージもあり、）現役でばりばり働いている方たちはそうかもしれないけれど、この夫婦はもう年金生活なので、お金がかからないように、かつ楽しく暮らそうとしていることがみてとれました。テレビはとりあえず映ればいいし、スマホも持たず、通信費はできるだけ抑えているようでした。

30 分ぐらいテレビを見ていたら、いきなり庭の出入り口から男の人が入ってきました。とっても私は焦りました。それはグレッグ・ダイアンと仲良しの隣のお父さんでした。轟音のような話声、しかも彼もおやじギャグを連発し、一人で大声で笑う。外国人に慣れているつもりの私も結構面食らう迫力。いかにもアメリカ人。結局私たちは彼の家にお邪魔して開会式を見ることにしました。奥さんは今夜は不在で、20 歳ぐらいのかわいい女性が二人いました。娘さんかと思ったら、姪とその友達で、おじさんを訪ねてきたのだとか。お約束の「お宅拝見」。お隣さんの 2 階までしっかり見せていただきました。開会式を 5 人で見ていると、遊びに行って戻ってきたグレッグもやってきて、みんなでテレビを見ました。そこに犬がいるのですが、テレビを見ている私たちに、ボールをくわえてやってきて、ボールを投げて遊んでくれとお願いしに来る。私は犬は怖いのですが、その様子はとてもかわいく思えました。そのうち、私が犬が苦手と分かったのか、あまり来なくなりましたが、他の人がボールを投げってくれるので、うれしくて興奮のあまり、思わず私のところにもまた来て、すぐに私だと気づき、「あ、間違った！」と走って逃げていくさまがとても面白かったです。

そうこうしているうちに、入場行進のアメリカチームが始まり、ひととおり盛り上がり、アメリカが終わるとすぐにお開きになりました。テレビを見ている間、グレッグもお隣のお父さんもおやじギャグをお互いに出して、自分のものにだけ笑っていました。

次の日はホームステイも最後の日なので、「どこに行きたい？」と聞かれ、私は自然科学博物館に行きたい、と答えました。



【2016.8.7 Nature & Science Museum, Dinner with family of Diane's son】

今朝はゆっくり 7 時ごろ起きて、ブランチを食べて、自然科学博物館へ。立派な T-rex の骨模型に迎えてもらいました。コロラドやアメリカ採掘された鉱物、貴石・宝石の展示を見たり、宇宙開発・地学分野の展示を見ました。グレッグは、「子どもがいないからこういうところにはめったに来なかった」と結構楽しんでくれて、来てよかったなあと思いました。しかし、ふたりとも疲れてしまい、あとの展示は見ないようだったので、私だけ走って恐竜のコーナーを見たり、コロラドの自然・動物の展示を見ました。そのあと、「アイマックス」という 3D のミニ映画を見せてもらいました。アメリカの国立公園を題材にして、とても興味深く、さすが自然科学の国、と感心しました。グレッグは宇宙開発のものを見たかったようです。ネイティヴアメリカンについてのコーナーが私は一番関心があったもので、いろ

いろな部族の言葉によるビデオを見たり、模型の家や、衣服、狩りの様子、調度品などを見ました。朝食が遅かったけれど、午後になって少しおなかが減って、お昼は売店でポテトチップスを買って食べました。ポテチが昼食になるなんて思ってもみず、なんだかとても新鮮でした。

夜はダイアンの息子さんの家に招かれ、孫二人とともに、みんなで夕食。終わるとすぐにオリンピック観戦。日本の水泳選手がいきなり金メダルを取ったので私はリスニングが間違ったのかと思い、混乱しました。

最後の夜は、ダイアンの家族の写真、グレッグの家族の写真をそれぞれ見せてもらい、フェイスブックの話などして過ごしました。二人ともほろ酔いなのか、最後の日でそれなりに緊張も解けたのか、内緒話もしてくれて、ああ、これから本当に打ち解けてゆけるのになあ、と残念でした。

ダイアンが新聞記事の切り抜きをくれました。広島原爆記念日の記事でした。「ナミコにとっては大切な日でしょう」と言ってくれたその配慮に泣きそうになりました。原爆を投下した国で読む記事はすこし複雑なものがありましたが、記事を切り取ってくれたことに、心温まる思いでした。

猫のサミーと別れるのも私にはとてもつらかった。やっとベッドの上に乗ってくれるようになったのに。反対側のお隣さんの家から音楽が聞こえてきて、とてもいい感じで、空気はカラッとしているので過ごしやすく気持ちがよかったけれど、でもさみしい夜は更けてゆきました。



【2016.8.8 Bye bye Corolado】

朝はやはり 5 時半に起きて、サミーと庭で過ごした。ごろごろするサミーを見ていたらとてもさみしかった。ダイアン、グレッグと三人で朝食を食べ、荷物を詰め込んだり、取り出したりしているうちにあっという間に時間になり、すこしあわてて家を出た。二人が空港まで送ってくれて、最後はハグして

別れた。一人で成田まで帰ることになる。出国検査まで長い列に並んで、荷物検査を受けた。私の荷物をなかなか返してもらえず、列が止まってしまった。ドキドキドキ。多少英語がわかるといっても一人は心細い。こっちへ来い、とスタッフに呼ばれ、手荷物の中身を全部出された。恥ずかしい！私はうっかり手荷物にシャンプーを入れてしまっていた。それがひっかかってしまいもちろん没収。「bye bye shampoo」と言ったら笑われた。

飛行機に乗って、映画を見るスクリーンを操作したが、動かない。クルーを呼んで再起動してもらったが、ドイツ語しか出てこない。そしたら、クルーに、「席の移動をお願いしますか」と言われ、席を移ったら・・・エコノミープラスという少しいい席だった。ラッキー。座席が広く、サービスがちょっといい。しかもお隣が空席。スクリーンも先ほどのところより映りも動きも良い。これは、寝ている場合ではない。飛行機は座席の不具合で一時間出発が遅れた。だから、乗ってから降りるまで12時間ほどあったが、私は一睡もしないでフライトを楽しんだ。好きなアメリカのテレビドラマがあり、全部見た。また、昔の映画、最新の映画を早送りして20本ほど見た。座席の温度もちょうどよく、今まで何度も飛行機に乗ったが、一番乗り心地が良かった。

成田から羽田に移動して、迎え兼東京で遊んでいた家族と合流し、庄内まで帰った。家についてすぐ思ったことは、アメリカに行ってきた実感がないなあ、ということ。気候風土、暮らしぶりが似ているので、なんだかバスに乗って山形県の別のところに行って帰ってきたような奇妙な感じがした。



【まとめ 参加の理由を参照して】

(1) 英語の教員をしているのに海外にでかけていない

- ・ もう 10 年以上海外に行っておらず、とにかく、アメリカに行きたかった。英語を使って人とコミュニケーションをし、大好きな異文化に少しでも多く触れたかった。かといって、語学学校に行くほどの余裕、時間もなく、手続きの煩雑さにもためらわれた。観光旅行などもういい。そういう意味で、ホームステイをしながら仕事にも生かせる研修ができるこのツアーは今の私のニーズにぴったりであった。アメリカの生活にしても、学校にしても、知っていると思っていたことが実は知らなかった、ということがたくさんあり、短い期間であったが密度の濃い時間だった。

(2) 小学校を見せてもらって（小学校との交流授業）

- ・ アメリカだからこそ小学校に入るまでは ABC は読めると思っていたが、ペンを持つこともできない子供もいるということだった。移民の国だし、英語を全然知らない親の元で育っている子供もいるのだから当然のことか。
- ・ 体で字を覚えさせようとする取り組みが面白かった。砂に字を書いたり、スプレーを使ったり、絵の具を使ったり、tactile というのか、触覚を使って字を覚えるというのは、興味深い。
- ・ イチゴは red で、バナナは yellow なのだと色の定義を一つ一つ教えてゆく、というのも興味をひかれた。教えておかないと忘れてしまうのだそうだ。家で使わないから当然だ。先生の熱意がすごかった。
- ・ 子供が英語ができるようになると、親とのコミュニケーションがうまくいなくなることもある、というのは移民の国ならではのことだと思った。
- ・ 発音とスペリングには大きなギャップがある。文字が種類しかないから楽かと思ったが、そう簡単にはいかない。英語に囲まれた環境にある子供にも言語習得には困難があり、ましてや日本の子供たちにとっては英語を使ってゆくことは簡単ではないのだとあらためて実感した。日本の小学校の先生方にもご苦労はあると思うが、日々楽しく英語の授業を進めておられるのを見聞きし、頭が下がる。

(3) YIA

- ・ Jo Anne 先生の活動の様子をじかに拝見させていただいた。日本文化というとサブカルチャーばかり強調され、それだけが日本の文化という人も増えてきているが、この団体は、日本の歴史や伝統文化だけでなく、日本の風土や暮らしにも興味を持ちアメリカでしっかり学んでくれている。また、来日するたびに、被災地でのボランティア活動も行ってくれ、日本人の心に寄り添うような活動を展開している。これからもこのつながりを大切にしたいと思う。

(4) 国際村さんにも恩返し？

- ・ 微力すぎて恩返しはできなかった。
- ・ 中高生のツアーの内容もまじかに見たが、準備支援や事前学習の内容も良く、こちらからスタッフが一緒に行ってくれ、また、アメリカでも日本人のスタッフがすべてコーディネートしてくれて万全のサポートであった。子供を初めて海外に旅行、研修させるツアーとしてはとても良いものだと思います。

(5) コロラド州と山形県が姉妹都市なのは、どんな理由か

- 二つの街にどんな共通点があるのだろう、ということに興味があった。山があり、雪が降り、食べ物がおいしい、ということは大きな類似だ。「雪が降って冬はつらいんだよねー」「うちもだー」のような、気候風土に共通点があり、国や言葉が違ってても、なんとなく共感できるものがある、というのはとても面白く、姉妹都市として大切な要素なのだろうと思った。それ以外に、堅実な暮らしぶり、人づきあいや家族を大切にするとところも似ているのではないかと思う。グレッグやダイアンと一緒にいると、夫の両親や自分の両親と似ているなあと思うことが随所にあった。あまりアメリカに行った実感がしなかったのも結局こういうことなのかなと思う。

知らない、よそよそしい国に行って、建物や風景ばかりを楽しむよりは、雪や夏の暑さ、食べ物や野菜の話で盛り上がり、共通の話題を持ちながら「交流」をしていく方がずっと楽しい。心がつながってゆく。英語を勉強する意義もこういうところにあり、アメリカだけでなく、世界中の人とコミュニケーションをしながら仲良く生きてゆくために、これからもまだまだ英語を勉強してゆこうと思う。

10 日間は短かったけれど充実した幸せな時間だった。お世話になったみなさんに感謝します。国際村のスタッフはもとより、こんなおばさんとツアーをともにしてくれた 中高生の皆さん、そして鈴木先生に special thanks を贈りたいと思います。本当にありがとうございました。



● 参加者氏名

名 前	所 属 学 校
鈴木 万緒	鶴岡市立大山小学校
中島 那美子	山形県立鶴岡中央高等学校

(敬称略)

● 同行者氏名

名 前	所 属
佐藤 幸	(公財) 出羽庄内国際交流財団

● 同行者より

今年、英語教育を学ぶコロラドスタディツアーは3回目を迎えました。英語を母語としない人への英語教育を専門とするジャン・ハンフリー氏がメインコーディネーターとなり、アメリカにおける教育の様々な面を見ることができたツアーとなりました。

今回は2つの違う地域の小学校を訪問し、言語の指導の仕方や、教室の運営について現場の先生に伺いました。一つのクラスの中で様々な言語や文化を背景としている子どもたちが一緒に学習しており、学習の方法も個々の児童にあうよう様々な工夫がされていました。英語を話さない保護者も多く、多言語によるサポート体制も確立されているようでした。

また、今回初めて公立の中高一貫校を訪問し、高校生に学校案内をしていただきました。国際関係に特化した学校で、多くの留学生が在籍しているほか、様々な国のことや国際問題などについても生徒たちは深く学んでいる様子でした。卒業後は国外に留学する生徒も多いとのことでした。

参加者は全泊ホームステイをしましたが、大変温かく受け入れていただき、家庭での生活も大変素晴らしい体験となりました。今後もみなさんとの交流は続いていくことと思います。

今回も多く収穫があったツアーとなりました。この経験が学校現場でも活かされ、またコロラドとの交流も広まっていくことを願っています。

(公財) 出羽庄内国際交流財団 佐藤 幸